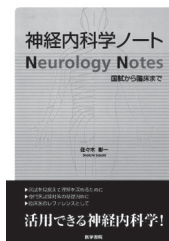


書評

[評者]

岩田 誠

東京女子医科大学名誉教授／メディカルクリニック
柿の木坂院長



神経内科学ノート

国試から臨床まで

佐々木彰一 著

●B5 頁216 2013年

定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01506-6]医学書院刊

数年前に私の親しい友人で、長年の同僚である佐々木彰一先生から、学生向けの教科書を執筆中であると聞いた私は、これはきっと役に立つ素晴らしい教科書ができるに違いないと思った。私たちが共に働いてきた東京女子医科大学では、国家試験の受験を迎える最終学年の学生に対し、各領域の復習として補講を行ってきたが、それに際しては、学生たちにどの教師の講義を聴きたいかのアンケートをとり、その結果に従って補講カリキュラムを組んできたのだが、神経内科領域では毎年佐々木先生の希望が最多であり、いつも彼に講義をお願いしていた。佐々木先生から教科書執筆のことを聞いた途端に、このことを思い出し、その教科書の刊行を心待ちにしていたのである。

数日前、その教科書を佐々木先生自身から手渡されたとき、私はまず、グレイの落ち着いた表紙からなるスマートな外見に感心した。そしてページを繰ると、目に飛び込んでくるのは、実に美しいカラー図版の口絵である。佐々木先生は、大変に経験豊富、かつ優れた判断能力をもつ神経内科の臨床医であると同時に、ニューヨークのモンテフィオーレ・メディカルセンターにおいて平野朝雄先生の下で神経病理学を学ばれ、形態学の蘊奥を究めた研究者でもある。本書冒頭の口絵は、形態学者としての彼の面目躍如たるものであり、それを見ているだけでも、ほれぼれとする思いである。

本書における佐々木先生らしいもう一つの特徴は、神経解剖学を主体とした総論の章である。ここには、神経画像法によるマクロな形態から、彼の得意とする電子顕微鏡下の微細構造に至るまでの形態学が、明快な模式図とともに示されていて、きわめてわかりやすい。それに続く神経学的診察の章も、常に解剖学的な理解のうえに成立した症候学を展開している。私は、神経内科学における臨床活動の基礎は神経解剖学であり、形態学的な基礎のない臨床神経内科学は、机上の空論

にすぎないと思っている。佐々木先生はそのような私の信念を最もよく知る仲間であるが、これら二つの章を、私たち二人の共通の信念に従って書かれたことに、私は大いに満足している。

さて、本書の後半は、各論としてさまざまな神経内科疾患について記載されているが、その膨大な領域に及ぶさまざまな疾患について、疾患概念、病理・病態、症候、検査所見、鑑別診断、治療、予後が実にコンパクトにまとめられている。このまとめ方は、かつて私がまだ若い神経内科医であったころに何度も繰り返し読んだ、Houston Merritt の『A Textbook of Neurology』を彷彿とさせる。私が読んだころの同書は、Merritt 単著であり、神経内科疾患のみが簡潔な文章でわかりやすく記述されていた。考えてみると、Merritt はモンテフィオーレ・メディカルセンター神経内科主任を長く務めた方であり、それを考えると、佐々木先生のこの教科書に Merritt の教科書の面影が垣間見られたとしても不思議ではない。

本書を執筆していると私に語ってくれたとき、彼は学生向けの教科書を書いていますと言っていた。確かに、この教科書のわかりやすい記載と明快な図は、学生向けの教科書として書かれたことを物語っている。所々に挿入されている[Point]に示されたまとめや、指示記号で示された囲み記事のメモなどは、学生の勉強に大いに役立つに違いない。しかし、本書に記載されたさまざまな知識は、すでに医師になった者にとっても大いに役立つ。神経内科専門医の認定試験に含まれる範囲のことはすべて書かれているし、実際の臨床の現場での心覚えとしても常に座右に備えておきたい書物である。

わずか 170 ページ程度の書物のなかで、神経内科学のすべてをもれなく展開してくれた本書に、私は脱帽する。